



「山門は隠元自筆鳥雲に」

森 澄雄

森澄雄は大正八年、姫路に生まれ、五歳からの幼少期を長崎市で過ごした。

昭和二十九年、第一句集『雪櫟』を上梓し、俳誌「寒薔」の編集、「杉」の主宰等をしながら、『鯉素』（読売文学賞）、『四遠』（蛇笏賞）等句集を出版した。

平成十八年、森、八十七歳の時に、長崎市興福寺に句碑が建立された。日本に臨済宗黄檗派（のち黄檗宗）の禅を伝えた唐僧隠元を招く中心となったのは興福寺の中国僧逸然と言われているが、隠元ゆかりの興福寺に句碑が建てられ、作ったのがこの句である。

他に、長崎を詠んだ句に、

文旦や長崎の空あをかりき

などがある。